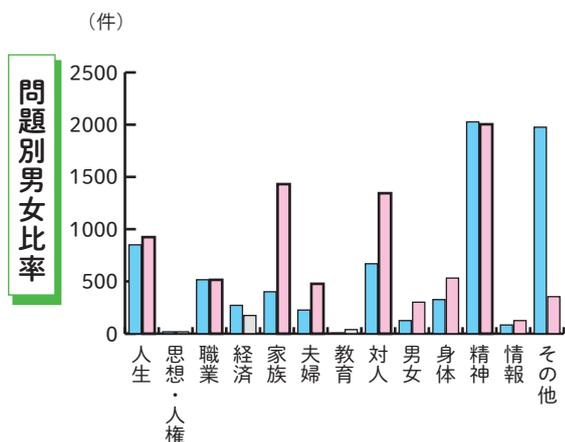


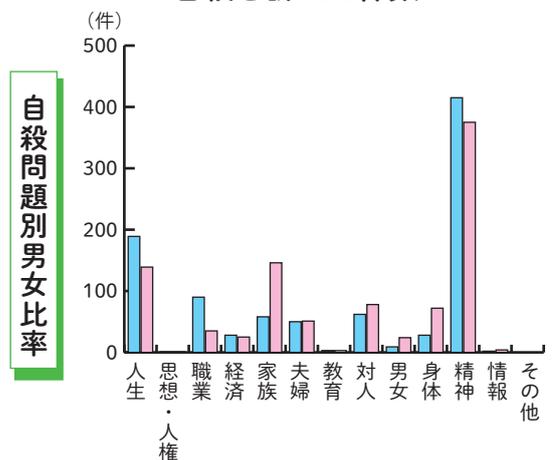
# 北九州いのちの電話受信状況 2023年1月～12月

- 受信総件数：18,597件（含無答数 2,853）
- 相談件数：15,744件（男：7,494 女：8,238 不明：12）
- 自殺を訴えた件数：1,888件（男：935 女：953）

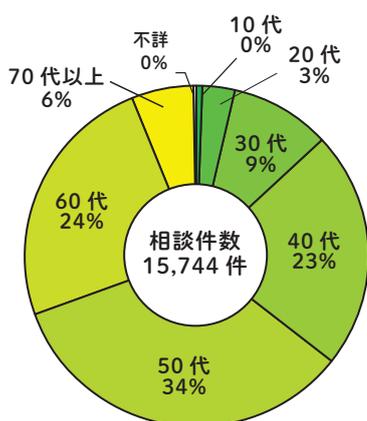
相談受信件数 □男 □女



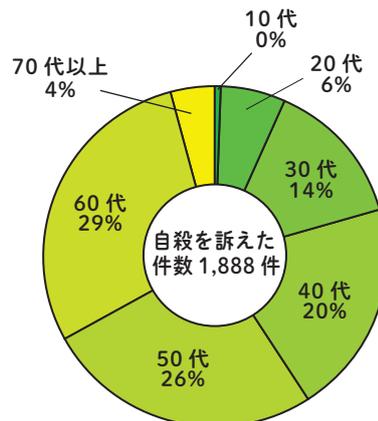
自殺を訴えた件数 □男 □女



年代別割合



自殺年代別割合



2023(令和5)年の総受信数は18,597件、無答(つなげなかったものの、かけ手が音声を発しないもの)の2,853件を除いた相談件数は15,744件(男7,494件、女8,238件、不明12件)で、前年より1,127件減りました。また、自殺を訴えた件数1,888件(男935件、女953件)も前年より621件減っています。ただし、このことは必ずしもかけ手からの相談そのものが減少しているというわけではなく、受け手(相談員)の減少という問題が背後に潜んでいます。

問題別分類では男女とも精神(疾患)に関するものが多数を占めており、自殺を訴えた件数の割合にもそのまま表れています。

年代別相談件数の割合は40代以上が8割以上を占

めており、そのうち自殺を訴えた割合も40代以上でほぼ8割となっています。

令和5年版の国の自殺対策白書では、平成10年以降、3万人台で推移してきた自殺者数が平成22年に減少に転じ、ここ数年は2万千人台で推移している旨、報告されています。ただ、若年層、とりわけ20歳未満の自殺者数の増加がみられ、今後対応すべき新たな課題として指摘されています。

小中高生にとって、いのちの電話はあまり認識されていないのか、相談へのハードルが高いのか明らかではありませんが、スクールカウンセラーの活用をはじめ、より身近な窓口の開設や啓発活動など、早急に対策が求められるところです。